

## 一宮町新庁舎建設計画（素案）の住民説明会概要説明

一宮町庁舎建設推進委員長の芝崎です。私から概要を5点に別けて説明をさせていただきます。

1点目は、新庁舎の必要性です。

昭和42年に建設された現庁舎は、44年経過し、大きな地震がくると倒壊する危険性があること、行政機能の増大により手狭になったことにより十分な行政サービスを提供できないことから早急に新庁舎を建設する必要があります。

平成9年度に庁舎の耐震診断を実施し、平成10年度に耐震補強工事の予算化をし、工事の予定をしましたが、調査の結果、補強工事を実施しても防災の拠点となりえる十分な効果が得られないことから工事を実施しなかった経緯もあります。

2点目は、住民の皆様で構成する「一宮町庁舎建設検討委員会」の答申を受けて、役場内に「一宮町庁舎建設推進委員会」を設置し、具体的な項目について作業を進め、今回の「一宮町新庁舎建設計画（素案）」を作成いたしました。

3点目は、建設場所です。

庁舎建設が可能な敷地面積を確保できる4箇所の検討を行った結果、利便性、経済性、安全性を考慮した中で建設場所は「現庁舎敷地内」としました。

4点目は、庁舎の規模と建設方法です。

庁舎の規模は、職員数などから「地方債事業の標準面積算定基準」を基本にし、「2,300㎡」を上限としました。

建設方法は、今後10年間に必要な公共施設やポンプ場などの維持管理費、さらに津波対策として保育所の移転費など多くの支出が予想され、これらの将来の財政運営を考慮しながら検討した結果、現在、柏市などで取り入れている「鉄骨造りのリース方式」で建設し、概算費用は「6億5千万円」といたしました。

これは、庁舎建設基金（貯金）が約 5 億 3 千万円ありますので、できる限り借金をしないで建設できる範囲かと思えます。

5 点目は、防災対策です。

色々な災害がありますが、現在の庁舎位置であれば新庁舎を建設しても、すべての災害に対して災害対策本部を設置して対応できると考えています。

懸念されるのが、大津波対策です。町の考えは、過去の判明している最大の津波「延宝の津波」が約 330 年前に 6m～8mと言われ、ハザードマップでは現庁舎まで到達していません。また、これ以上の大津波が来た場合を想定し、新庁舎は海拔 10m以上の建物とし、一時避難場所になるように建設いたします。

ちなみに現保健センターは 3 階の床で海拔 13mあります。

以上、概要を申し上げました。